

## 第1回部活動検討委員会【報告】

日時：令和4年5月30日（月）  
参加者：検討委員及び事務局11名

### 【事務局からの説明】

- 本検討委員会では、竹田市の部活動の現状と課題を出し合い、子どもたちにとってより良い方向を検討したい。
- 部活動は、教科学習とは異なる集団での活動を通じた人間形成の機会や、多様な生徒が活躍できる場。技能面だけでなく、生徒指導を兼ねることもあり。
- 各学校、生徒数が減っていて部活動自体の存続が難しい。活動中の部活動でも、合同チームを組まないと成り立たない現状がある。（団体競技）部活動の選択肢も少なくなっている。
- 日本の教師の労働時間は世界でも突出している。教師の長時間勤務の要因の一つである。教師の時間外のボランティアで成り立ってきた。部活動は必ずしも教師が担う必要のない業務であることを踏まえ、部活動改革の第一歩として、休日に教科指導を行わないことと同様、休日に教師が部活動に携わる必要がない環境を構築したい。
- 文科省は令和5年度からスタートし令和7年度に全ての部活動の地域移行をめざしている。
- 指導経験のない教員に指導される生徒にとって専門的な指導を受けられる機会を構築したい。
- 地域移行の考え方について、「休日のみか、平日もか？ 学校単独か、合同か？ 受け皿はどこか？ 誰が指導するか？ お金はどうするか？」等について考える必要がある。

### 【意見交換】

- 受け皿、指導者の問題あり。まず、第1回の本日は、現状の出し合いをしていただきたい。
- 中体連の現状。合同チームで中体連大会に参加できるようようになった。合同チームで勝てば県総体に出場できる。いずれ学校名でなく、社会体育チーム名で参加できるようになるかどうかを、全国中体連を始め各段階で検討中。
- 休日の部活のみの地域移行となっているが、最終的には、→休日だけでなく、平日も可能か探っていきたい。ゴールを文科省は打ち出していない。日数も同時に考えていきたい。
- まさしく資料にある受け皿と指導者の課題。受け皿となる競技団体がどのくらいあるのか。指導者確保が困難。土日やるとしても仕事があったり、教員と同じように休日である。
- 土日やろうという先生は兼業兼務申請を提出してやることはできるが、果たしているのか。
- 指導者少ないし、いても指導者も忙しい。必要性は感じているが。
- 県で人材バンクを作ればという話が上がったが、市町村で取り合いになるのではないかと
- 少年野球等の運営資金は→会費とっているが、ほぼボランティア。保険かけている。
- 試合の引率なども協会や外部指導者が行うのか。→外部指導者は中体連の監督・引率ができない。現在、個人戦のみ監督ができるようになった。部活動指導員であれば、会計年度任用職員として雇われている人で、教員がいなくても部活動につける。
- 学校管理下に適用される学校健康センターによる補償が可能か、確認する必要がある。
- 休日ではなく、水曜日の夜の指導もできるのか？→スポーツ庁のガイドラインがあり、週2日以上の休日をとるということが示されているため、水曜日は「ノ一部活動」としている。
- 土日に練習試合をすることが多いだろう。先生付かずにやるのか。平日の指導と休日の指導が違うので難しい。→部活動はただ技術を教えるだけのものではないので難しい。
- 竹田市では部費は取っているか？→基本的にはとっていない。他市は運動部月3,000円程度、文化部の吹奏楽などは月5,000円。今後、少しだけ保護者負担が出てくることも考えられる。

### 【次回までに確認すること】

- ぜひ、次回までに「受け入れ」「指導者」をしていただければそうな団体はないか調査してくる。
- 教員にアンケートを取る場合は、校長会議で提案し、タブレット端末で実施。

### 【閉会に当たって】

- （教育長から）100年の歴史あるものを変革していく。一部、痛みを伴ったりあるいは我慢したりすることもある。それでも変革する必要がある。どうかよろしくお願ひしたい。